

宮城県商地工会区中小企業景況調査報告書

2024年4月～6月期

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. 県下産業全体の景況 | 2 |
| (1) 主要景況項目のあらまし | 2 |
| (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし | 3 |
| (3) 今後の見通しについて | 4 |
| 2. 県下産業別の景況 | 5 |
| (1) 製造業の動向 | 5 |
| (2) 建設業の動向 | 8 |
| (3) 小売業の動向 | 11 |
| (4) サービス業の動向 | 14 |

2024年8月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2024年4月～6月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 149企業

2. 調査対象期間

2024年4月～6月期を対象として、調査時点は2024年6月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

| 業種 | 企業数 |
|-------|-----|
| 製造業 | 32 |
| 建設業 | 24 |
| 小売業 | 43 |
| サービス業 | 50 |
| 合計 | 149 |

5. その他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2024年4月～6月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より△4.1ポイント悪化し△29.3（前期△25.2）となった。産業別では、製造業が△43.8（前期△32.3）で△11.5ポイントの悪化、建設業は△12.5（前期△25.0）で12.5ポイントの改善、小売業は△36.5（前期△27.9）で△8.6ポイントの悪化、サービス業でも△22.0（前期△18.4）と△3.6ポイントの悪化となった。

来期見通しでは、製造業、サービス業で改善する一方、建設業、小売業では悪化する見通しとなっている。

表-1 業況D I の状況と来期見通し（前年同期比・D I）

| 業種 | 前期 | 今期 | 来期見通し |
|-------|-------|-------|-------|
| 全産業 | △25.2 | △29.3 | △27.2 |
| 製造業 | △32.3 | △43.8 | △25.0 |
| 建設業 | △25.0 | △12.5 | △29.1 |
| 小売業 | △27.9 | △36.5 | △41.5 |
| サービス業 | △18.4 | △22.0 | △16.0 |

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が9.4%で前期比△8.8ポイント減少、建設業は8.3%で前期比△4.2ポイント減少、小売業では11.6%で前期比2.3ポイント増加、サービス業でも14.0%と前期比3.8ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて製造業で横ばい、建設業、小売業、サービス業で減少する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画（企業割合・%）

| 業種 | 前期 | 今期 | 来期計画 |
|-------|------|------|------|
| 製造業 | 18.2 | 9.4 | 9.4 |
| 建設業 | 12.5 | 8.3 | 4.2 |
| 小売業 | 9.3 | 11.6 | 7.0 |
| サービス業 | 10.2 | 14.0 | 8.0 |

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2024年6月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2024年3月調査）と比較し、製造業がマイナス1で前期比横ばい、非製造業はプラス12で前期比1ポイント低下。世界的なデジタル関連需要の回復や、円安などを背景にインバウンド需要が拡大している一方、人件費の増加や物価上昇による消費低迷などへの懸念が企業マインドの重石となり、景況感は小幅に悪化する見込み」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、小売業、サービス業で悪化、建設業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業、小売業、サービス業で全国・東北以下、建設業で全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 東 北 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 |
| 製 造 業 | △ 11.6 | △ 11.4 | △ 28.6 | △ 20.6 | △ 27.3 | △ 34.4 |
| 建 設 業 | △ 15.9 | △ 9.3 | △ 26.6 | △ 15.7 | △ 29.2 | △ 8.3 |
| 小 売 業 | △ 23.2 | △ 20.1 | △ 32.9 | △ 31.2 | △ 7.0 | △ 32.5 |
| サービス業 | △ 3.7 | △ 0.9 | △ 7.6 | △ 8.4 | 0.0 | △ 18.0 |

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で製造業、サービス業で悪化、建設業、小売業で横ばいとなった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、サービス業で全国・東北以下、建設業、小売業で全国以下・東北以上であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

| 区分 業種 | 全 国 | | 東 北 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 | 前 期 | 今 期 |
| 製 造 業 | △ 22.0 | △ 23.4 | △ 27.8 | △ 31.7 | △ 28.1 | △ 50.0 |
| 建 設 業 | △ 27.3 | △ 23.9 | △ 35.7 | △ 40.4 | △ 37.5 | △ 37.5 |
| 小 売 業 | △ 34.6 | △ 32.1 | △ 39.9 | △ 43.2 | △ 37.2 | △ 37.2 |
| サービス業 | △ 26.5 | △ 24.1 | △ 33.4 | △ 30.6 | △ 33.4 | △ 35.4 |

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2024年7月～9月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が12.5ポイント、サービス業で8.0ポイントの改善、建設業では△8.4ポイント、小売業でも△9.3ポイントで悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で15.6ポイント、建設業で8.4ポイント、サービス業で10.4ポイントの改善、小売業では△7.0ポイントの悪化の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通し。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国で改善・宮城で悪化の見通し。サービス業では売上が全国・宮城で改善、採算でも全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区分 業種 | 全 国 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| | 今期状況 | 来期見通し | 今期状況 | 来期見通し |
| 製 造 業 | △ 11.4 | △ 7.1 | △ 34.4 | △ 21.9 |
| 建 設 業 | △ 9.3 | △ 14.7 | △ 8.3 | △ 16.7 |
| 小 売 業 | △ 20.1 | △ 32.5 | △ 32.5 | △ 41.8 |
| サービス業 | △ 0.9 | △ 0.7 | △ 18.0 | △ 10.0 |

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

| 区分 業種 | 全 国 | | 宮 城 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| | 今期状況 | 来期見通し | 今期状況 | 来期見通し |
| 製 造 業 | △ 23.4 | △ 17.2 | △ 50.0 | △ 34.4 |
| 建 設 業 | △ 23.9 | △ 20.6 | △ 37.5 | △ 29.1 |
| 小 売 業 | △ 32.1 | △ 30.3 | △ 37.2 | △ 44.2 |
| サービス業 | △ 24.1 | △ 20.0 | △ 35.4 | △ 25.0 |

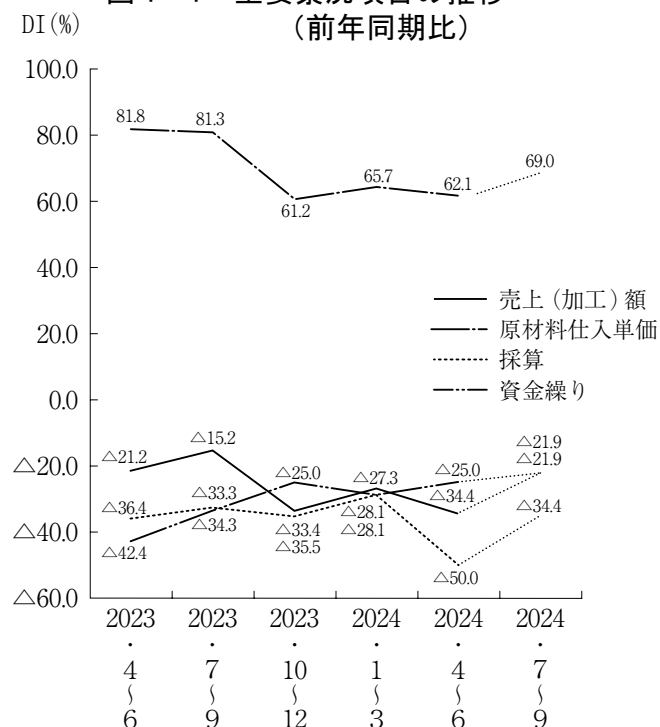
2. 県下産業別の景況

(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△34.4（前期△27.3）となり前期比△7.1ポイント悪化、採算D Iでは今期△50.0（前期△28.1）で同△21.9ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△25.0（前期△28.1）で同3.1ポイントの改善となった。原材料仕入単価は今期62.1（前期65.7）と△3.6ポイントの下落となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



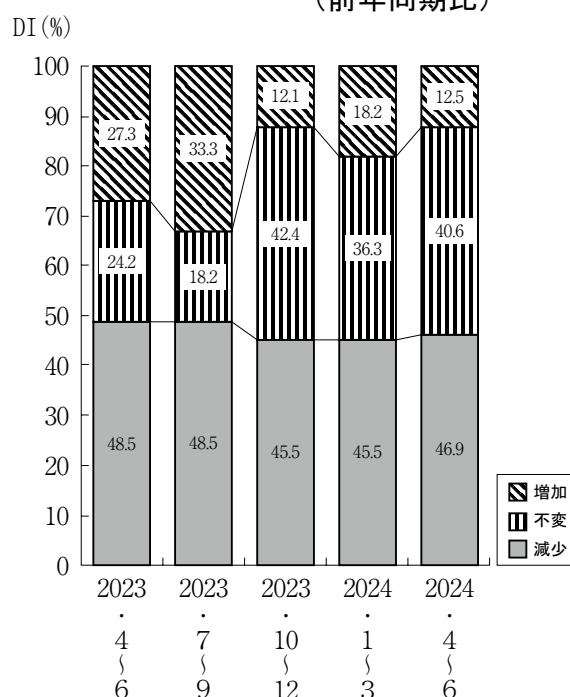
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の12.5%（前期18.2%）で5.7ポイントの減少、「減少」と回答した企業は46.9%（前期45.5%）で1.4ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△34.4（前期△27.3）となり、前期比△7.1ポイントの悪化となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

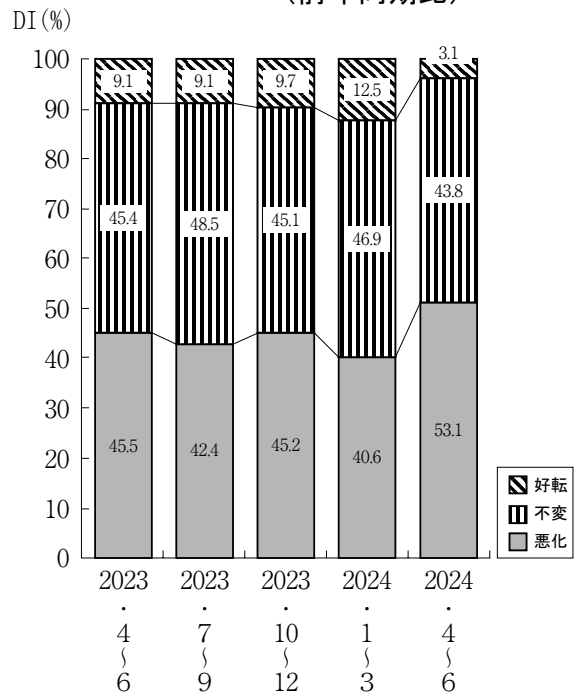


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の3.1% (前期12.5%)で△9.4ポイント減少、「悪化」と回答した企業は53.1%(前期40.6%)で12.5ポイント増加した。

その結果、採算DIは△50.0(前期△28.1)で△21.9ポイントの悪化となった。

**図1-3 採算の状況
(前年同期比)**



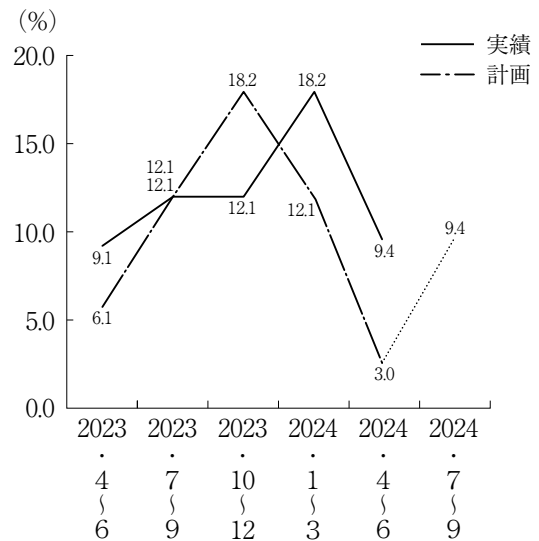
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の9.4%(前期18.2%)で前期と比べ△8.8ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.4%で、その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

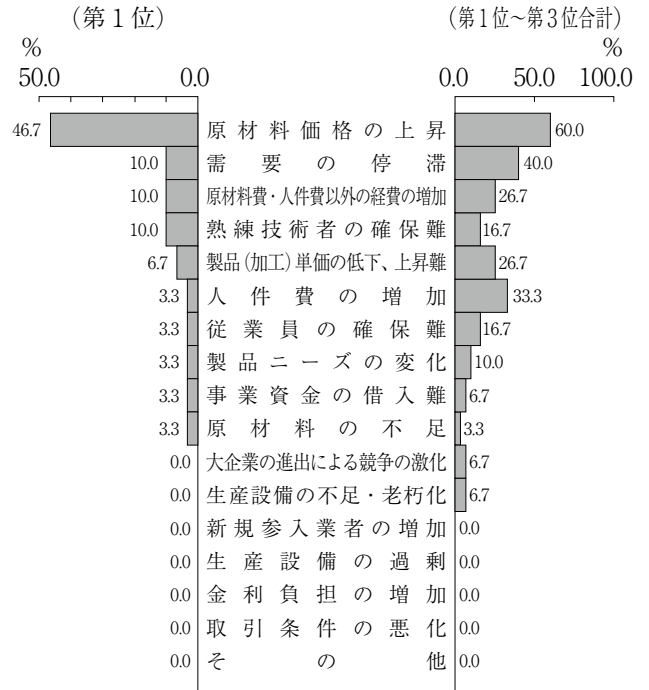


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で46.7%、次いで「需要の停滞」「原材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」が同率10.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が60.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が40.0%、「人件費の増加」が33.3%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」「製品（加工）単価の低下、上昇難」が同率26.7%、「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」が同率16.7%、「製品ニーズの変化」が10.0%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



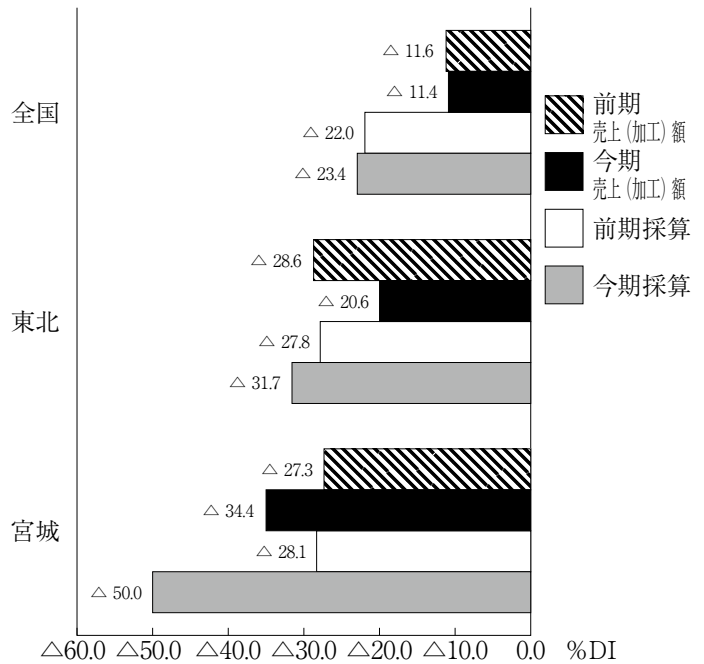
① 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額DIは全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算DIでは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「連休が多かった割には仕事量は確保できた」（歯科技工）とする一方、「円安による仕事量の低下」や「材料費及び諸経費の高騰が心配」（金属加工）、「原材料価格が2-3割程度増加」（機械加工）、「原価上昇分を販売価格に転嫁することが困難」（印刷業）などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



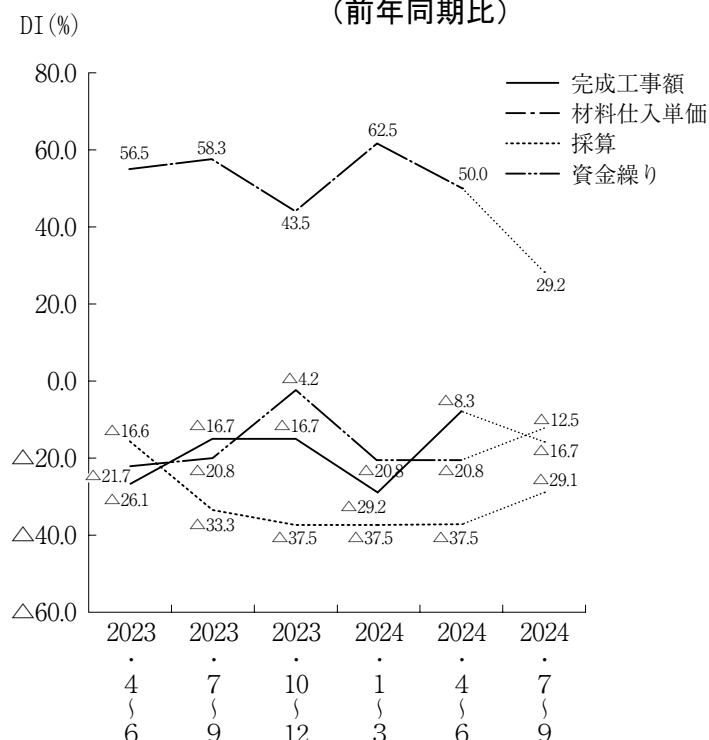
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事(請負工事)額D Iは今期△8.3(前期△29.2)となり前期比 20.9 ポイント改善、採算D Iでは今期△37.5(前期△37.5)で横ばい、資金繰りD Iでは今期△20.8(前期△20.8)で横ばいとなった。

材料仕入単価D Iは今期△50.0(前期62.5)と△12.5ポイントの下落となった。

図 2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



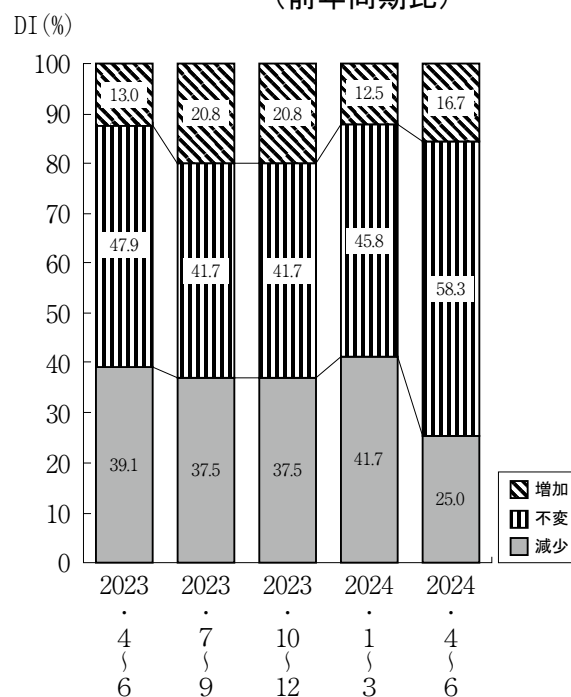
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事(請負工事)額

「増加」と回答した企業は全体の16.7%(前期12.5%)で4.2ポイント増加、「減少」と回答した企業は25.0%(前期41.7%)で△16.7ポイント減少した。

その結果、完成工事(請負工事)額D Iは△8.3(前期△29.2)となり、前期比20.9ポイントの改善となった。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

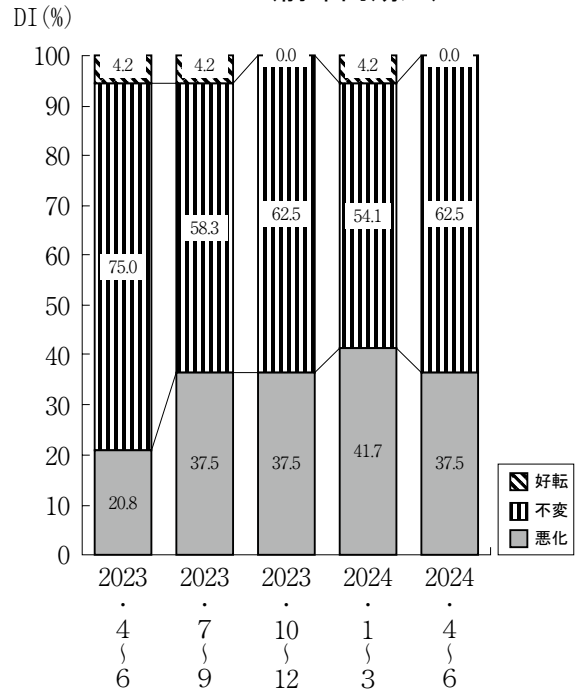


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 4.2%) で△4.2 ポイントの悪化、「悪化」と回答した企業は全体の 37.5% (前期 41.7%) で△4.2 ポイント減少した。

その結果、採算DIは△37.5 (前期△37.5) となり横ばいとなった。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



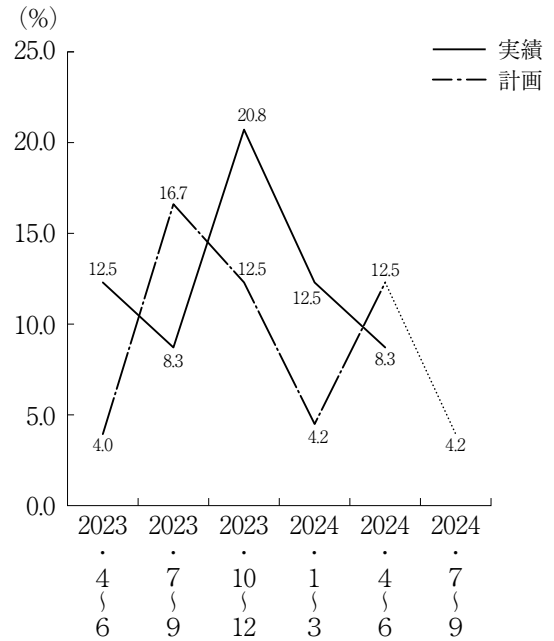
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 8.3% (前期 12.5%) で前期と比べ△4.2 ポイント減少した。

その設備内容は、建物、建設機械であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 4.2%で、その設備内容は、建設機械となっている。

図 2-4 設備投資の状況

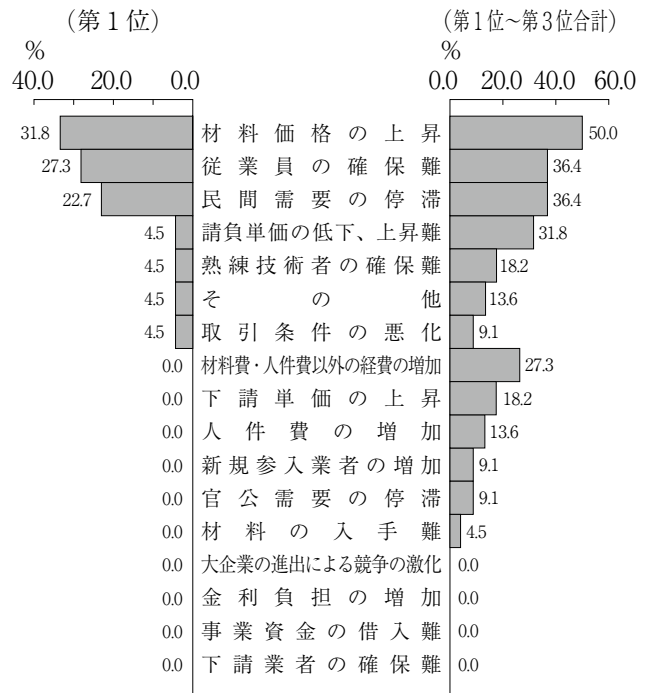


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」で31.8%、次いで「従業員の確保難」27.3%、「民間需要の停滞」が22.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が50.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」「民間需要の停滞」が同率36.4%、「請負単価の低下、上昇難」が31.8%、「材料費・人件費以外の経費の増加」が27.3%、「熟練技術者の確保難」「下請単価の上昇」が同率18.2%、「人件費の増加」が13.6%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



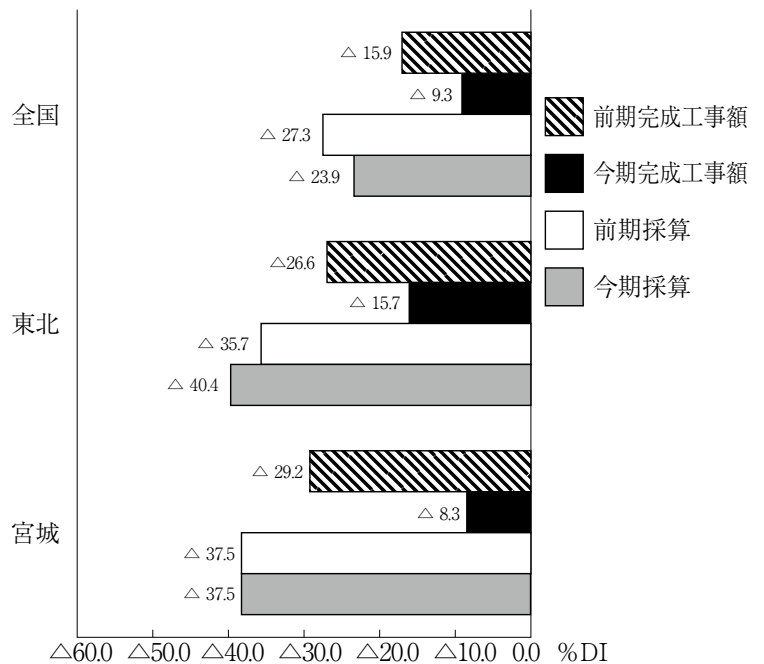
② 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全地域(全産業)で改善となった。その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D Iの比較では全国で改善、東北で悪化、宮城は横ばいであった。

本県回答事業所からは「全体工事量の減少」(土木業)、「公共工事や大型引合い案件が減少傾向にある」(電気工事)とし、「資材、外注を含めた人件費の高騰」(建設工事)や、「円安の影響もあり仕入材料費の高騰で利益率の確保が期待できない」(電気工事)などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較(前年同期比)



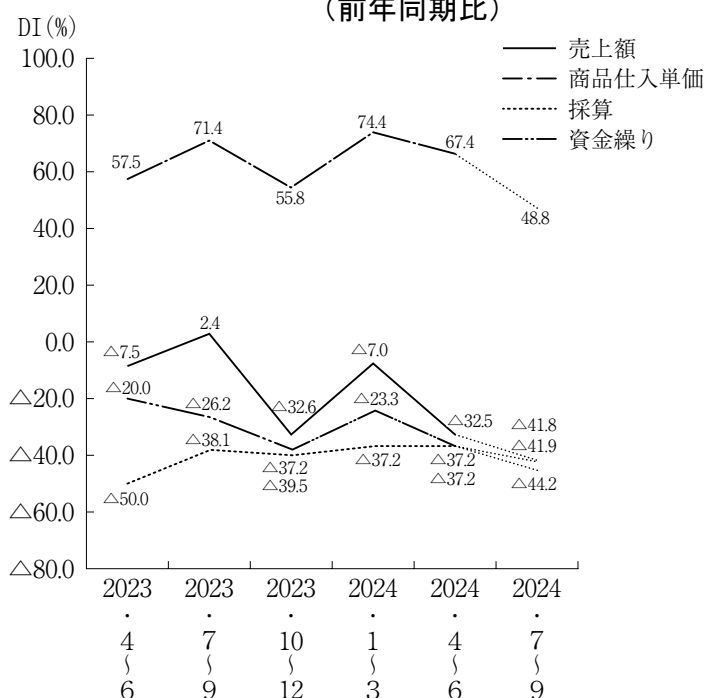
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額DIは今期△32.5（前期△7.0）と前期より△25.5ポイント悪化、採算DIでは今期△37.2（前期△37.2）で横ばい、資金繰りDIでは今期△37.2（前期△23.3）で△13.9ポイント悪化した。

商品仕入単価DIは今期67.4（前期74.4）となり、△7.0ポイントの下落となった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



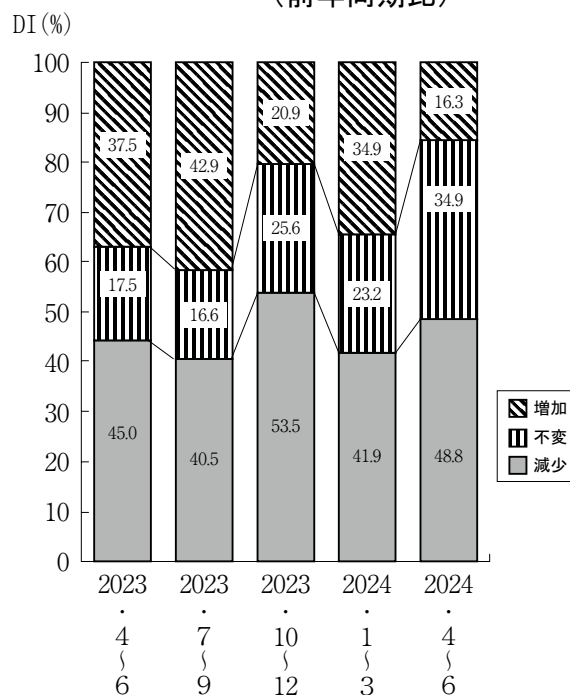
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の16.3%（前期34.9%）で△18.6ポイント減少、「減少」の回答は、今期は全体の48.8%（前期41.9%）で6.9ポイント増加した。

その結果、売上額DIは今期△32.5（前期△7.0）と前期より△25.5ポイントの悪化となった。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

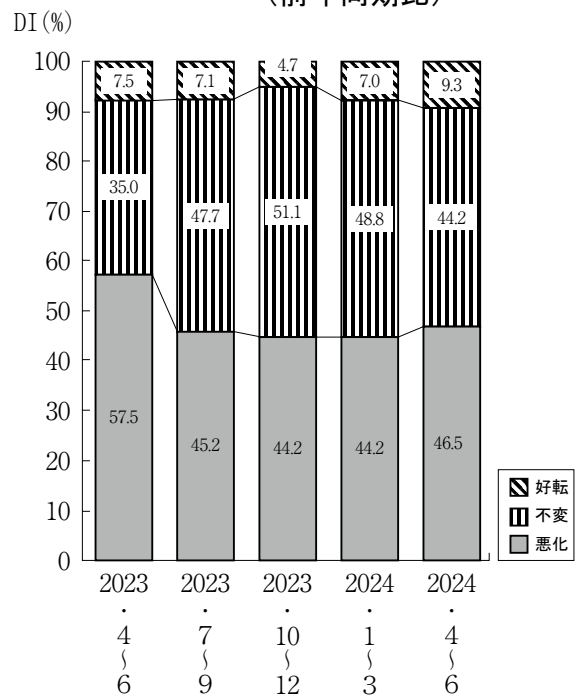


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の9.3%（前期7.0%）で2.3ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の46.5%（前期44.2%）で2.3ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△37.2（前期△37.2）で横ばいとなった。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



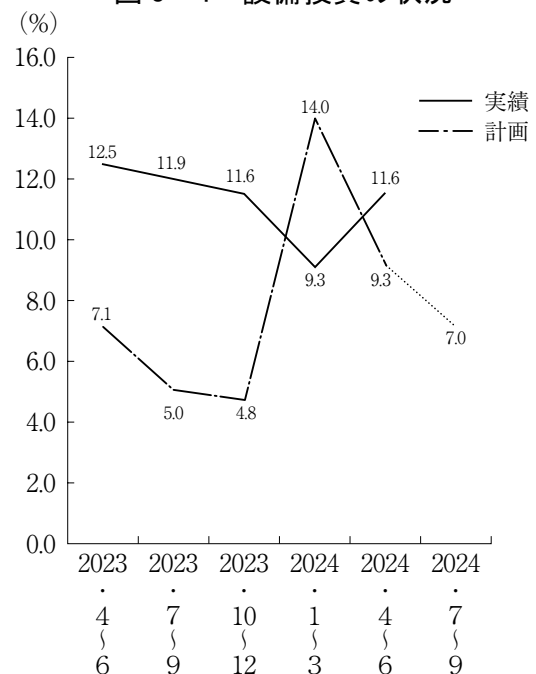
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の11.6%（前期9.3%）で前期比2.3ポイントの増加となった。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の7.0%で、その設備内容は、店舗、販売設備、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況

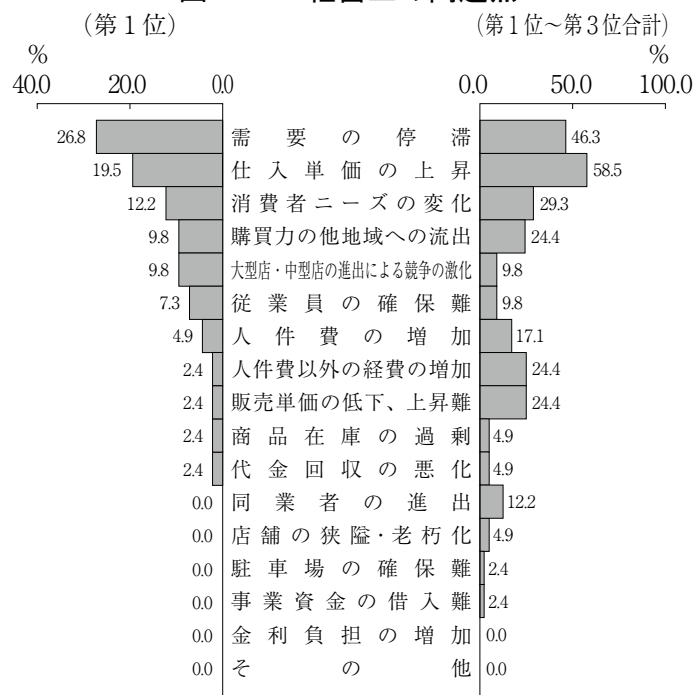


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が26.8%、次いで「仕入単価の上昇」が19.5%、「消費者ニーズの変化」が12.2%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が58.5%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が46.3%、「消費者ニーズの変化」が29.3%、「購買力の他地域への流出」「人件費以外の経費の増加」「販売単価の低下、上昇難」が同率24.4%、「人件費の増加」が17.1%、「同業者の進出」が12.2%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



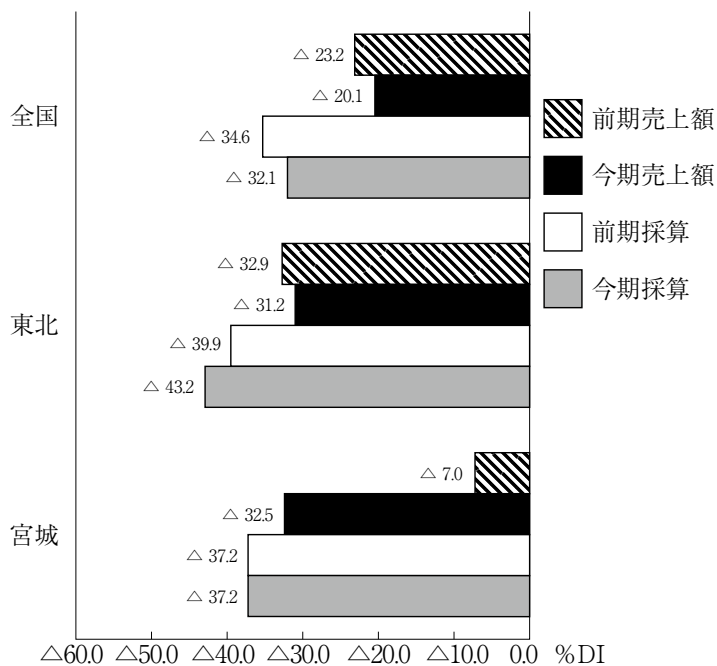
① 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上D Iは、全国、東北で改善、宮城で悪化となった。

採算D Iの比較では全国で改善、東北で悪化、宮城は横ばいであった。

本県回答事業所から「コロナ禍からの底からは回復」（身の回り品）とする一方で、「物価高騰の影響により顧客の買い控え、来店者数が減少」（酒類販売）、「物価高騰による消費低迷が感じられる」（海産物）、「天候による売上変動が大きい」（菓子類）、「電子決済の普及で月中資金繰りに苦慮」（青果販売）、「従業員確保が困難」（食料品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



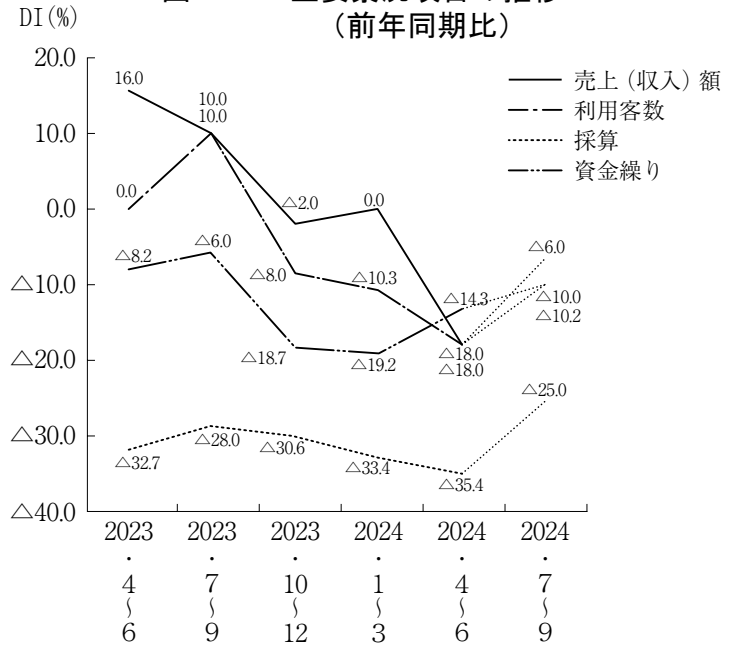
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額DIは今期△18.0(前期0.0)で△18.0ポイント悪化、採算DIは今期△35.4(前期△33.4)で△2.0ポイント悪化、資金繰りDIでは、今期△14.3(前期△19.2)で4.9ポイント改善した。

利用客数DIは、今期△18.0(前期△10.3)で△7.7ポイント低下した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



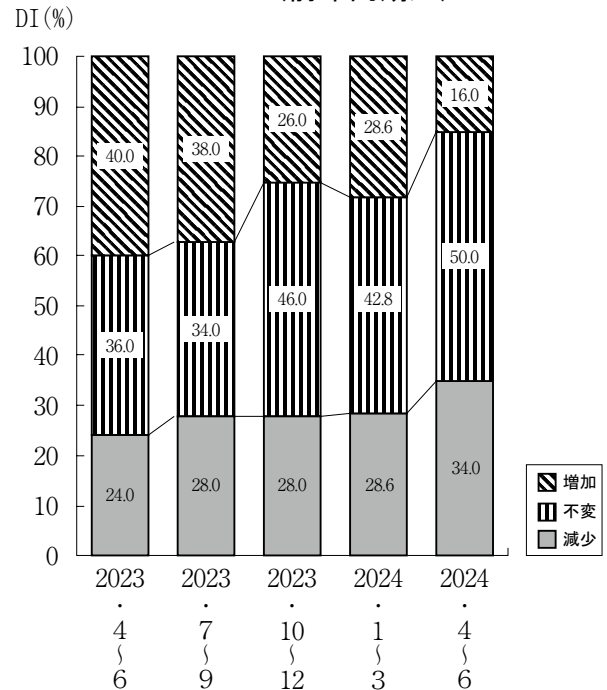
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の16.0% (前期28.6%) で前期より△12.6ポイント減少、「減少」の回答は今期34.0% (前期28.6%) で5.4ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額DIは今期△18.0(前期0.0)で、前期より△18.0ポイントの悪化となった。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

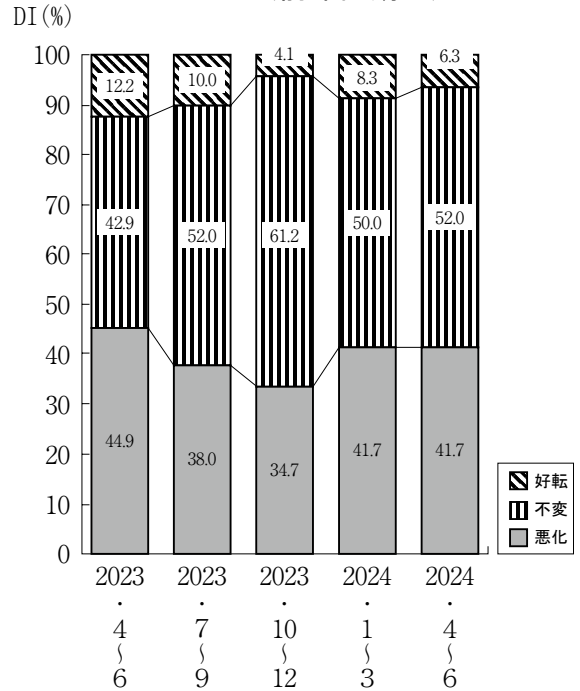


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.3%（前期8.3%）で△2.0ポイント減少、「悪化」と回答した企業は今期41.7%（前期41.7%）で横ばい。

その結果、採算DIは今期△35.4（前期△33.4）で前期より△2.0ポイントの悪化となった。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



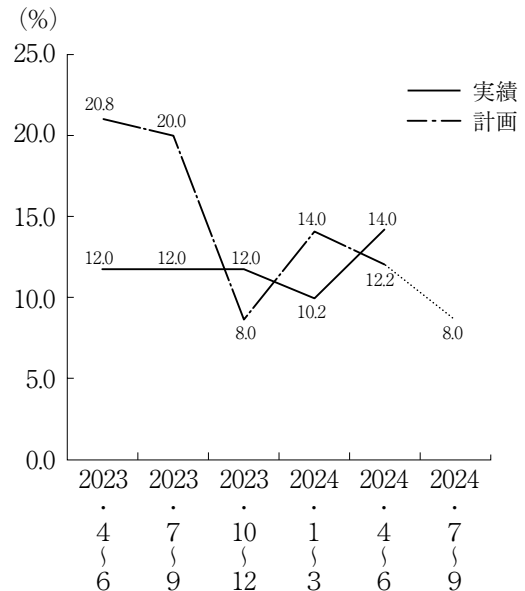
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の14.0%（前期10.2%）で、前期比3.8ポイントの増加となった。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の8.0%で、その設備内容は、土地、建物、車両・運搬具、OA機器となっている。

図4-4 設備投資の状況

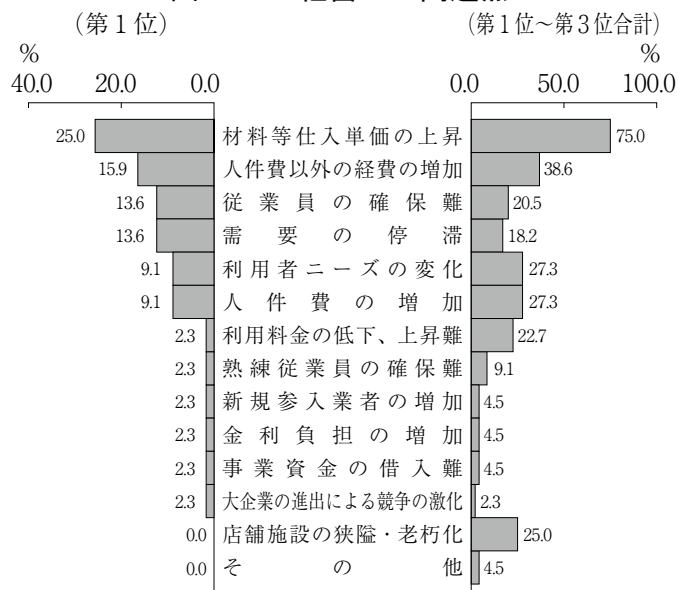


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が25.0%で、次いで「人件費以外の経費の増加」が15.9%、「従業員の確保難」「需要の停滞」が同率13.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が75.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「人件費以外の経費の増加」が38.6%、「利用者ニーズの変化」「人件費の増加」が同率27.3%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が25.0%、「利用料金の低下、上昇難」が22.7%、「従業員の確保難」が20.5%、「需要の停滞」が18.2%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



① 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国で改善、東北、宮城で悪化となった。

採算DIの比較では全国、東北で改善、宮城は悪化となった。

本県回答事業所からは、「来店客は少しずつ戻ってきている」（飲食店）、「コロナの影響は気にならなくなった」（美容業）とする一方、「従業員の確保が困難」（宿泊業）、「需要の停滞、燃料代の高止まり等で経費負担が大きい」（ランドリー）、「物価高による仕入価格の高騰や人件費増により経営環境は依然厳しい」（飲食店）などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

